

携帯する受信機

Ipv6 によって可能であると思われること。

世界中のあらゆる場所でも、静止・移動を問わず通信可能。

コンピュータに限らずあらゆる機器にネットワーク通信ができる。

以上の点より一番の理想は全ての機器にネットワーク通信を張り巡らせ、
どんな場所からでも情報の送受信や操作が可能な環境だ。

ここまで容易に情報をやり取りする環境を維持できるならそれらを

操作・配信・受信できる機器もまたどこでも使えるモノでなければならない。

それは誰でも持っていて携帯が容易なもの程良い。そこで私はそんな機材の参考として
「携帯電話」と「MD ウォークマン」の特徴と性能に注目した。

携帯電話は周知のとおりもはや小さなパソコンといっても差し支えない程その機能は
充実しており、今尚小さくコンパクトにその大きさを変え続けている。

MD ウォークマンは静止・移動を問わず、そしてその容量も今ではかなりのもの。

今回この二つの注目する点は携帯できる・もしくは装着できる点である。

万人が“保有”できるという点もさることながら、つねに“所持”できるという点がミソ。

「常に身につけることができる情報端末・情報機器」というのが送受信側の理想だろう。

そこで「MD ウォークマン」の装着できる点と「携帯電話」の多機能さを

併せ持つような機器にアドレスを振り分けて他の機器の送受信の中継をしてはどうか？

例えば下のような機材で。



前頁のような機材を用いて、携帯型の機器は従来どおりディスプレイでの情報を、イヤホン型の機器では音声や音による情報を受信する役目を担う。

イヤホン型の受信内容はその地域での天気予報や地震やニュース速報・渋滞カーナビなどの緊急速報系やラジオ番組や音楽等の配信、携帯型の受信内容はメールやホームページ等の従来の情報を受信し、自身もイヤホン型の受信機に稼働内容や操作等の情報を送信する。

これらにより、何時いかなる時でも早く情報入手できる、またこの端末らにアドレスを振り分ける際にその現在地域ごとに識別のアドレスを付加することで、地域ごとに違う気象情報を該当する人のみに送ることができる。

他にもこの地域限定のアドレスを更に縮小しある区画にいる人のみに音声を送信、例えば大学などの広い講義室などに入室した生徒らにアドレスを振り分け講師にその講義室にいる全生徒に対して自分の音声を配信する仕組みなどが取れば近い遠い距離に関わらず鮮明に講義の内容を聞くことができる。

このように Ipv6 による増えたアドレス量をもってして情報のある個人にもしくは団体や地域という不特定多数に限定的に配信することが出来る環境と機器を作ることができる。と考える。

